

精神医学

科目責任者 古 郡 規 雄
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

人間の健康は身体的、精神的、社会的な面から調和のとれた状態とされる。身体的にはいかに頑強であっても、精神障害に罹患した場合、健康は大いに損なわれる。社会情勢の激変に伴うストレスの増加によって、人間のこころはさらに危機にさらされ、医学の領域だけでなく、社会一般にとっても、精神医学の重要性はいつそう大きくなるだろう。近年のニューロサイエンスの急速な発展に伴い、統合失調症や双極性障害といった精神障害の生物学的な病因究明や治療の可能性がさらに開けていくことと思われる。精神医学に関する豊富な知識を持つことが、全ての医師に要求される時代である。

II. 担当教員

教 授 下 田 和 孝, 教 授 井 原 裕 (埼玉医療センターこころの診療科)
准 教 授 古 郡 規 雄, 准 教 授 菅 原 典 夫
講 師 佐 伯 吉 規, 助 教 川 俣 安 史
助 教 篠 崎 將 貴
非常勤講師 徳 満 敬 大, 非常勤講師 駒 橋 徹

III. 一般学習目標

精神医学においては、人間の精神機能および関連した中枢機能の失調・障害について、その発生機序・症状・状態像および類型について学習する。またそれらを把握し、治療へとつなげるための精神を病む人々に対する面接の仕方および生理的・生化学的検査法・画像診断核医学的検査や心理テストなどを用いた病態探索法・診断法さらに、薬物療法その他の身体療法・精神療法・リハビリテーションなどの治療法を学ぶ。上記事項に加えてそれら精神病理現象の社会的関連性・社会的対策などまでを、講義及び臨床実習において医学の他領域との関連のもとに多面的に習得する。

IV. 学修の到達目標

これらを通じて、精神的異常のみならず、人間における心身相関のあり方の理解、病める人間としての患者の理解と対応の仕方、医師、患者、家族関係など、臨床全領域に通ずる医師としての基本的素養の育成が目指される。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態))
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	4	火	5	精神医学とは	古 郡 規 雄	1
2		5	水	1	精神科症状学	古 郡 規 雄	1
3		6	木	2	精神科検査 (心理検査含む)	古 郡 規 雄	1
4		6	木	3	精神科治療	古 郡 規 雄	1
5		13	木	3	気分障害	徳 満 敬 大	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
6	4	28	金	1	睡眠障害・時間生物学	下 田 和 孝	1
7	5	1	月	4	統合失調症	菅 原 典 夫	1
8		1	月	5	強迫性障害, PTSD, パニック障害	川 俣 安 史	1
9		10	水	4	精神発達障害 (ADHD, ASD)	井 原 裕	1
10		12	金	2	病状性精神障害	佐 伯 吉 規	1
11		15	月	3	パーソナリティ障害	駒 橋 徹	1
12		15	月	4	解離性障害, 身体表現性障害, 適応障害	川 俣 安 史	1
13		17	水	2	老年期精神障害	菅 原 典 夫	1
14		17	水	3	物質依存・中毒性精神障害	菅 原 典 夫	1
15		19	金	2	思春期の精神障害 (摂食障害・不登校など)	古 郡 規 雄	1
16		19	金	3	精神保健福祉法	篠 崎 將 貴	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

テストの結果に出席状況を加味して総合評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

参考図書 現代臨床精神医学 (改訂第11版) 大熊輝雄著 金原出版 2008年

VIII. 質問への対応方法

講義終了後に可能な限り受け付ける。その他は秘書にアポイントをとった後、教室まで来ていただくことになる。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

オープンオフィスによる個人面談

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバスに記載がない場合要点を確認しておくこと。（所要時間20分）

XII. コアカリ記号・番号

D-15-1, D-15-2, D-15-3